

実施日：10月14日（5校時）	
教科等：国語科	
取組名：幸せってなんだろう？	
対 象：3年生	実施場所：3年教室
ア ねらい 「ちいちゃんのかげおくり」を読み、思ったことや感じたことから戦争が与えた悲惨さや命の大切さを感じ、「幸せ」について考え、戦争のない平和な世の中を願う思いを育む。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身が「平和だ」と感じるときについて話し合い、戦争のない世の中を生きる子どもたちは何に「平和」と感じているのかについて話し合う。</li> <li>・ ちいちゃんの心情の移り変わりを讀んだり、二つのかげおくりを比較しながらちいちゃん的心情を讀んだりしながら、家族と離れ離れになりひとりぼっちになるちいちゃんや、最後に死を迎える中で家族に会えたちいちゃんについて話し合う。</li> <li>・ 最後に家族に会えた状況は「本当に幸せ」なのかについて話し合い、ちいちゃん自身は幸せであるが、読み手である子どもたちは悲しいことや、死なないと得られなかった幸せであったことについて気付く。</li> <li>・ 「自分たちの幸せ」と「ちいちゃんの幸せ」を比較し、共通点から、いつの時代にも家族と一緒に過ごすことは「平和」であることに気付く。また、自分たちは家族といつでも会える状況であることと、ちいちゃんは死なないと家族に会えなかった状況であるという違いから、戦争が人々に与えた悲しさや、戦争が人々の「幸せ」を奪ってきたということについて考えを深める。</li> <li>・ 自分自身の「幸せ」とちいちゃんの「幸せ」を比較しながら考えてきた「幸せ」に対する自分の意見や感想を文章にまとめ、クラスのみんなや家族に伝え合う。</li> </ul>	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習に入る一次の段階から、これまで行ってきた平和学習をふり返ったり、「幸せ」という言葉からウェビング図をかいたりして、戦争のない自分たちが感じる「幸せ」について話し合い、まとめてから学習を進める。</li> <li>・ 自分たちの「幸せ」とちいちゃんの「幸せ」を比較したり、あまんきみこさんの思いを感じたりしながら、「幸せ」について考えた自分たちの意見を文章にまとめ、友だちや家族に伝える。</li> </ul>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年で毎年平和学習を行い、戦争に関する学習や、アニメや資料から戦争について知ったことから自分の「戦争や平和」に関する考えをまとめる。</li> <li>・ 家族に協力を求め、3年生なりに考えた「幸せ」に対する考えをまとめた意見文を読んだ感想をもらい児童たちのフィードバックとする。</li> </ul>	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の中での発言 ・ ワークシートに書いた記述 ・ 学習の最後にまとめた意見文</li> </ul>	
キ 成果 3年生なりに自分たちの幸せについて考えることができ、ちいちゃんの姿と比較することで、戦争のない平和な世の中が自分たちの命や幸せを守ることにつながると感じることもできた。	
ク 課題 まだまだ生活経験が少ない3年生にとって、戦争のない平和な世の中が自分たちの人権を守ることにつながることを十分に感じることもできたとは言えない。今後も学習を積み重ねる必要がある。	

## ちいちゃんのかげおくり～幸せって何だろう？～

### 1 はじめに

ちいちゃんのかげおくりは小学国語科学習の中で子どもたちが初めて出会う戦争教材である。戦争の歴史は人々の命や生活を奪う中で、当然あるべき人権も失ってしまうものであった。今の世界情勢の中で、戦争が全くないとは言えない。むしろ、今の子どもたちはニュースやネットの情報の中で、戦争を感じる経験も多くある。この学習を通し、3年生なりに自分たちの「幸せ」について見つめ直し、戦時中を生きる「ちいちゃん」と比較しながら考えていくことで、今ある人権の守られた幸せな生活は、戦争のない平和な世の中のおかげであることを深く感じ、戦争は二度と起きてはならないという思いを育んでいくきっかけとなる学習となるよう実践を進めた。



### 2 取組

(1) 今の自分たちが「幸せ」を感じる時はどんな時かを話し合う。

① これまでの平和学習を振り返る。

神岡小学校では全学年で教科書教材や戦争に関するDVDを視聴し、系統的に平和学習を進めている。3年生の子どもたちもこれまでに以下のような平和学習を行ってきた。

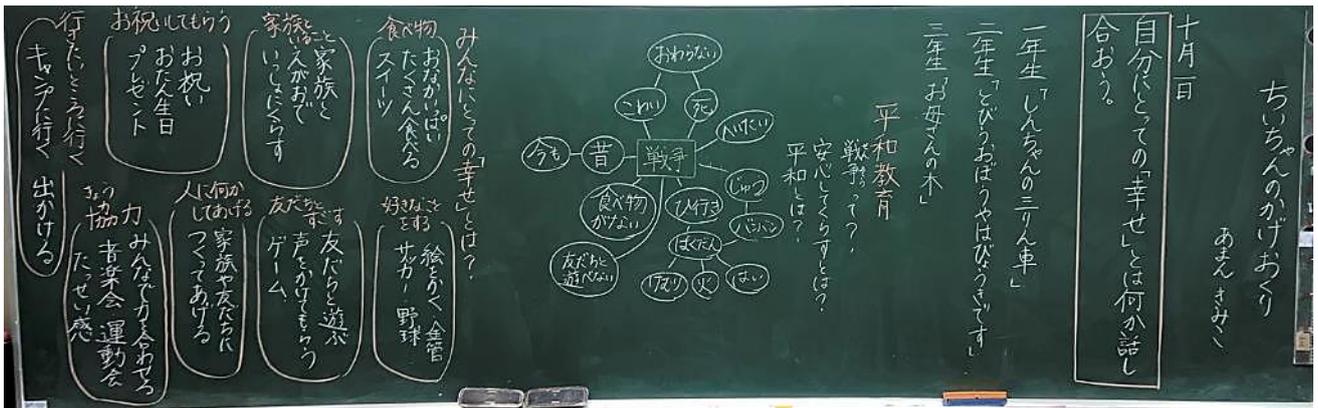
(1年生)「しんちゃんの三輪車」というアニメDVDを視聴し、戦時中の子どもたちの様子や原爆投下により命を落とした子どもたちについての感想を書く。

(2年生)「トビウオのぼうややはびょうきです」というアニメDVDを視聴し、原子爆弾による放射能が様々な悪影響を及ぼしたことに関する感想を書く。

(3年生)「おかあさんの木」というアニメDVDを視聴し、戦争に出征する息子たちを見送り、無事を願う母親の姿から、戦争について考えたことを感想に書く。

② 自分たちの「幸せ」とは？

自分たちの日々の生活を見直しながら、3年生なりに「幸せ」を感じる瞬間について意見交流した。子どもたちの意見を分類していく中で、「食べ物を食べる時」「好きなことをする時」「家族といること」「遊ぶ時」などの幸せを感じていることを共有した。自分たちとちいちゃんの様子を比べながら、単元のゴールとして、自分たちの考えた「幸せ」についての考えを文章にまとめ、伝え合うという言語活動を行うことを確認した。

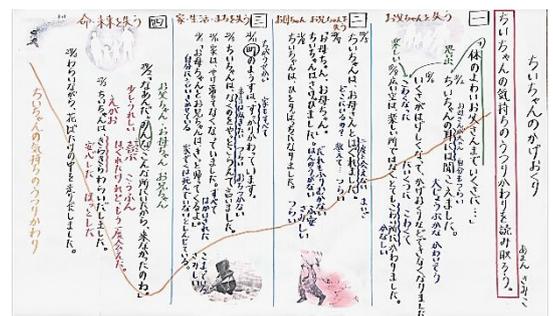


(2) ちいちゃんの「幸せ」と自分たちの「幸せ」を比較する。

① 場面ごとにちいちゃん的心情の移り変わりを読む。

場面ごとにちいちゃんが失っていくものに着目し、その出来事が起こるたびにちいちゃん的心情がどう揺れ動いているのかについて話し合った。

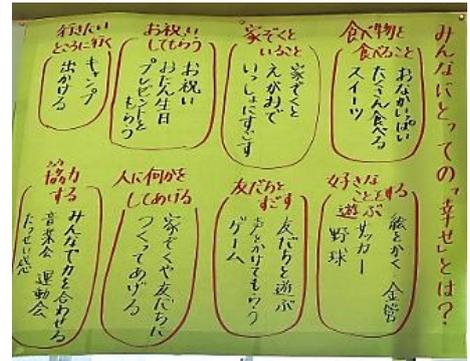
また、1場面と4場面のかげおくりの様子を比較しながらちいちゃんが戦時中ので、どんなことをしている時に「幸せ」を感じたのかについて考えをもち、交流していった。



[別紙②]

②ちいちゃんの「幸せ」と自分たちの「幸せ」

様々な視点からちいちゃんの「幸せ」について語り合い、「遊ぶこと」「家族と過ごすこと」というちいちゃんの幸せが見えてきた。そこで、自分たちの「幸せ」だと感じるものと比べて考えさせた。現在も戦時中にも共通して「遊ぶこと」「家族と過ごすこと」を幸せに感じる思いはある。しかし、違いはその幸せの「手に入れ方」である。今を生きる子どもたちはいつも通りの生活の中で、その幸せを得ることができる。しかし、ちいちゃんは「死なないと」得ることができなかった。この違いが戦争であるということに気づき、戦争のない世の中が自分たちの「幸せ」を守ることに繋がっていることを感じる事ができた。

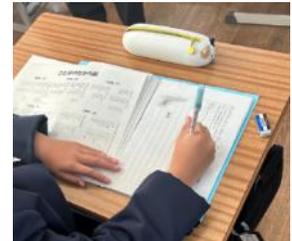


《児童の発言》

- H児： ちいちゃんは、お父さんやお母さんがいなくなつて、もう戦争とかも起こっていたから会える方法は死んでしまうことしかなくて。でも今は戦争とかもないし、家族には何気なく行っているところとかでも会える。携帯電話で「今どこにいる？」とかでも分かる。戦争が今起きていないからそれがちいちゃん自分たちとの違いだと思う。
- F児： 今は戦争をあんまりしていないから平和に暮らせるけど、ちいちゃんたちがいた時は戦争をいっぱいしていたから、あんまりみんなと幸せとか平和に暮らせなかった。ちいちゃんが生きていた時代は戦争があったけれど、わたしたちが生きている時は、戦争がないからみんなと遊んだり、会えたりしている。

③幸せについて伝え合う。

これまでの学習をもとに、「ちいちゃんのかげおくり」を通して感じた「幸せ」についての自分の思いや考えを文章にまとめ、交流した。文章にまとめる際にはあまんきみこさんの「ちいちゃんのかげおくり」に込めた思いの動画を視聴してから書き進めた。これまでの学習で感じてきたことがあまんさんのお話と重なる部分が多く、作者の思いに子どもたちなりに近づけたことを感じた。



《児童の作品》

わたしはかぞくと一緒に旅行へ行ったりどつこかでお出かけしたりするときに喜んでお△△年の旅行はかぞくとで高知県へ旅行に行きましょとてお本日は、つまぞうの所に行き次の日マンプンマンプンアムヘリキニ日も行きたかった所へ行けて、笑顔になりました。

ちいちゃんの幸せとは、やはり家ぞくといふにくらゐることに思ひます。理由は、本文にきろきくらわ、うりたしたと誓ひていたかり家ぞくといふしよにくらゐることがちいちゃんの幸せだと思ひます。

戦争がなければちいちゃんの命もたすかたし家ぞくといふしよに新しい未来にもりげたのにも思ひます。

わたしは、家ぞくと旅行へ出かけた思ひで、たたくんてあります。ちいちゃん一人ぼっちで、おもしろいおたりれどわたしは、さうではありません。わたしは、さうかおりまは、家ぞくと生きる幸せをこそお大事にしたいと強くおもいました。

[別紙③]

書いた文章はデジタルコンテンツ Padlet を活用して交流し、感想を書き合った。その後、家庭の保護者にも読んでいただき、児童たちの作品に対して感想を書いてもらった。

《児童の感想》

- ・ 戦争しているからちいちゃんたちは旅行に行くことができなかつたから、家族と旅行に行く時間を大切にしようね。
- ・ わたしも生きる幸せを大事にする。
- ・ 家族といたら安心感があって。幸せですよ。
- ・ 戦争だったら、旅行ができないかもしれないから、旅行は幸せですよ。

《保護者の感想》

子どもたちが「ちいちゃんのかげおくり」を読んで「平和」について一生懸命考えました。子どもたちの考えをお読みいただき、感想をいただければ幸いです。

娘の考えを読んで、私が今の日常の幸せに気が付きました。水としく過ごす毎日の中で家族がみんなそろって、気には同じ屋根の下で笑ったり、食卓を囲んだり、寝たりできる当たり前の生活こそが一番の幸せである事を思い出しました。戦争のない平和な日々を家族と一緒に過ごせる日常こそが、特別な事ではなく、みんなの笑顔が近くで見える日常こそが何と幸せな事があるか、気付かせました。これから子ども達と一緒に遊んだり、笑ったり時には笑ったりしながら、家族の時間を積み重ねていく。沢山の幸せな思い出も送る心に、喜んでいけたらいいなと思いました。家族みんなが個別にいてくれず、みんなに幸せな事が感謝するから生きていきたいです。

お名前 ( )

《本時の略案》

本時の目標 (第二次 第8時)

場面の移り変わりや、心情の変化、戦争という背景と結び付けながら、ちいちゃんにとっての「幸せ」についての考えをもつことができる。

本時の学習 (児童数20人)

児童の活動	指導上の留意点と支援と評価 (◇)	
<p>1 単元の目的を確認し、本時の学習を確認する。</p>	<p>・単元の最後に幸せについて伝え合うことを確認する。</p>	
<p>ちいちゃんにとっての「幸せ」とは何かを考えよう。</p>		
<p>2 物語の内容から、ちいちゃんにとっての幸せとは何かについて話し合う。 (家族と一緒に過ごすこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初のかげおくりで、家族みんなと一緒にいることができ、最後のかげおくりでもみんなと会うことができたから。</li> </ul> <p>(遊ぶこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族でかげおくりをして楽しかったけれど、空襲がはげしくなつてからかげおくりをして遊ぶことができなくなつたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後のかげおくりで家族に会えたことから、ちいちゃんは本当に幸せなのかについて考えさせ、死なないと幸せになれなかつたことをおさえる。</li> <li>・5場面を音読させ、戦争のない世界での子どもたちの姿が今の自分たちの姿と重なることに気付かせる。</li> <li>・ちいちゃんの幸せと自分たちの幸せを比較させ、戦時中も今も家族といふことの幸せは変わらないことに気付かせ、本来あるべきちいちゃんの幸せを奪つたのは何か話し合わせることで、戦争が与えた悲しさや戦争がないことで自分たちの幸せがあることについて考えを広げさせる。</li> </ul>	<p>(一斉) 短冊 挿絵</p>
<p>「ちいちゃんの幸せ」と「戦争」に対する考え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争がなければ、家族と出かけたり、おいしいご飯を食べたりする幸せがあつたはずだ。</li> <li>・戦争がないから、私たちにはこんなにたくさんの幸せがあるのだと分かつた。</li> </ul>		<p>(グループ) ↓ (一斉)</p>
<p>3 ちいちゃんの「幸せ」とは何かをまとめる。 (期待されるふり返りの例)</p> <p>私はちいちゃんにとっての幸せとは家族と一緒にいることだと思ひました。理由は、ちいちゃんはひとりぼっちになつてしまつていたけど、最後のかげおくりで家族にあえてうれしうだつたからです。戦争がなければ、ちいちゃんも生きて家族と暮らせたと思うので、戦争は本当に悲しいものだと思ひました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちいちゃんにとっての幸せとは何かについて「戦争」という言葉を取り入れて書かせ、戦争という時代背景も踏まえながらちいちゃんの「幸せ」についてふり返りを書かせる。</li> </ul> <p>◇場面の移り変わりや、心情の変化、戦争という背景を結び付けながら、ちいちゃんにとっての「幸せ」についての考えをもつことができる。</p>	<p>(個別) ワークシート</p>

《本時の板書》



3 成果と今後の課題

今回の学習を通して、今の自分たちの「幸せ」は戦争のない平和な世の中のものにあることを3年生なりに感じ、伝え合うことができた。「幸せについて考える」という課題はまだ生活経験の少ない児童たちにとっては難しいものであると感じながら学習をすすめたが、「自分」と「ちいちゃん」をくらべながら考えることにより、考えを深めることができていた。書いた文章を家族とも交流できたことで、「自分の幸せな生活はありがたいことだ」「命を大切にしていきたい」「戦争は二度と起きてほしくない」という思いをもつことができたように思う。

しかし、発達段階的に「平和・幸せ」＝「人権が守られている」という感覚には十分に至っていなかった。今回が国語科教材で初めての戦争教材でもあるので、今後の学習の積み重ねや他教科での人権学習と結び付けながら考えを深めていく必要があると感じた。